

第25回記念

五條園美リサイタル

平成30年10月13日(土) 2回公演

名古屋能楽堂 (名古屋城正門前Tel. 052-231-0088)

—園美作品集より—

昼の部

一時開演 (十二時半開場)

荒れ鼠

五條 恵奈

五條 園青

薄墨桜

五條 麗

五條 智奈

吼噓

五條 園美

高尾さんげ

五條美佳園

あたま山

五條 園美

五條美佳園
五條 園藤

五條 恵奈
五條 美悠

夕の部

四時半開演 (四時開場)

飛翔

五條美佳園

残月

五條 智奈

連枷の音

五條園八王

猿まわし

五條 園美

羽衣

五條園小美

五條 園智

あたま山

五條 園美

五條美佳園
五條 園藤

五條 恵奈
五條 美悠

全自由席 昼の部・夕の部 各5,000円、昼夕とおし8,000円

チケットお取り扱い・お問い合わせ

五條流園美の会事務所 TEL・FAX 052-881-6684

<http://sonomi.fc2web.com/>

(公財)名古屋市文化振興事業団チケットガイド TEL 052-249-9387

各出演者宅

主催 五條流園美の会

後援 愛知県・名古屋市・中日新聞社・愛知芸術文化協会・(公財)名古屋市文化振興事業団



地唄 荒れ鼠

初回 S57・4・4
名古屋市民会館中ホール
「第2回リサイタル」

釈迦に提婆や鯨に鯨鉾 月に叢雲花に嵐 国に盗人 家には鼠・・・と天井裏から鼠が出てきて大暴れ、さて。 初回は園美の一人立ちでした。

創作 うすずみのさくら 薄墨桜

初回 S56・6・21
名古屋市民会館中ホール
「第1回リサイタル」

宇野千代著「薄墨桜」を読んで発奮したものです。越前の男大迹皇子と桜の精のなつかしい愛と哀しい別れの物語。園美の憧れの恋物語でした。

皇子役に山路曜生師でした。



是非ともご高覧賜りますよう

五條 園美

地唄 こんかい 吼 噓

初回 H5・10・28
東海テレビ・テレビアホール
「第10回リサイタル」

名古屋市民芸術祭 93 に参加、受賞作品
原曲は、現存の地唄の中では最古の部類に属し、三絃の原曲は元禄年間の初めころにできる。

女性の立場から、と、園美が新解釈し、発表しました。病を治すため招いた祈祷の法師は、元の夫であった。再会を喜ぶ二人だが、この男は実は狐であるという正体をみやぶられて、悲しみつつ森へ帰る。

長唄 あたま山

初回 S62・11・7
名古屋市民会館中ホール
「第6回リサイタル」

その亭主が大変な大頭で、その頭にはえた桜の木、その木をぬいたら池ができてしまって・・・と有名な落語「あたま山」から。初回は園美一人でしたが、此の度は、町衆たちと。

地唄 残月

初回 H2・11・15
名古屋市民芸術創造センター
「第8回リサイタル」

残月信女という女性の法名から取った題名で、可愛がって親しくしていた妹妓への追善の気持ちであらわしたものです。平成12年第16回リサイタルには、園美の亡父を偲んで再演しました。

長唄 猿まわし

初回 H25・11・16
今池ガスビル
「第50回秋栄会」(井屋六秋氏)

小品ですが、猿まわしと猿の、何ともいえない風情ある演目です。

長唄 高尾さんげ

初回 H10・9・15
中日劇場
「第14回リサイタル」

名古屋市芸術奨励賞受賞記念の会
延享元年(1744)に作られた曲で、当時長らく大評判でした。

亡霊の傾城高尾が塚の陰から出て、憂き目の身の上話となり、ついには地獄の責め苦の恐ろしさにおののき消えてゆきます。

創作 飛翔

初回 S62・11・17
東京・青山円形劇場
「第2回創作舞踊展」

音楽 福原百之助「飛天」より
奈良の薬師寺。逝く秋の 大和の国の薬師寺の塔の上なる ひとひらの雲、と、東塔にいる天人を題材に天平時代に想いをはせ、笛と太鼓を使って自分なりの世界を膨らませてみました。

創作 からさお おと 連枷の音

初回 H7・6・3
東京国立劇場
「五條流創作舞踊研究会」

フランス文学「ペスト」カミュ著から題材を得た作品です。突然降りかかった不条理な禍い・・・唸りかかるペストに娘は恐れ悲しみ、戦おうとしますが、いつか絶望の底へと沈んでゆきます。

一中節 羽衣

初回 H2・11・15
名古屋市民芸術創造センター
「第8回リサイタル」

月の都から来た天女と、羽衣を拾った漁師の物語。文化年間に作られたこの曲は、能「羽衣」より脚色したもので、美しさと品位に満ちています。伯了に工藤英記氏でした。